



UiO : University of Oslo Library

「日本専門家ワークショップ2013」報告

2013年2月19日 於 東京 国際文化会館

2013年9月21日

EAJRS, BULAC, Paris

オスロ大学 人文社会学図書館

マグヌスセン 矢部 直美



日本専門家育成戦略会議 ワークショップ運営委員会 樺山 座長



会議は午前9時30分から16時まで。前もって提出された研究事業例や質問票をふまえ、日本専門家による現状・具体例の報告があり、その後今後の日本専門家の育成事業や資料提供における課題が話し合われた。



会議参加者1 日本研究関連学会

- Jordan Sand(北米)
Ass. Prof. Georgetown Univ., Visiting Prof. Tokyo Univ. Graduate school in Information Studies, Association for Asian Studies (AAS)
- Harald Fuess (ドイツ)
Prof. for Cultural Economic History, Heidelberg Univ. Cluster of Excellence "Asia and Europe in a Global Context", European Association for Japanese Studies (EAJS)
- Corrado Molteni (イタリア)
Prof. of Japanese Studies, Univ. Of Milano, culture Attache, Embassy of Italy in Japan, Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi (AISTUGIA)
- Vera Mckie (オーストラリア)
Prof. Faculty of Arts, Univ. Of Wollongong, Japanese Studies Association for Australia (JSAA)
- 徐 一平 (中国)
Director, Beijing Center for Japanese Studies, Beijing Univ. Of Foreign Studies
中国日本語教学研究会

日本学研究者による現状報告 日本専門家の育成授業における現状と課題



会議参加者2 日本情報専門家協会

- Fabiano Rocha (カナダ)
Japan Studies Librarian, University of Toronto Libraries, Professional Development Working Group, North American Coordinating Council on Japanese Librariy Resources (NCC), Council on East Asian Libraries, Association for Asian Studies (CEAL)
- W.F. Vande Walle (ベルギー)
Prof., Faculty of Arts, Katholieke Universiteit Leuven, Chairman, European Association of Japanese Resource Specialists (EAJRS)
- Chisato Sugita (フランス)
Chief Librarian, Maison de la culture du Japon à Paris
- Naomi Yabe Magnussen (ノルウェー)
Senior Librarian, Universitetsbiblioteket i Oslo, Nordic Institute of Asian Studies (NIAS) Library and Information Center
- Yasuyo Otsuka (イギリス)
Curator, The British Library, Japan Library Group UK

日本情報専門家による報告 日本学支援、資料提供の現状、問題点



会議参加者3 過去二年ワークショップ参加者

- Paul Benjamin Kreitman (研究者 2010年度)
PhD, Princeton Univ. USA, Visiting Fellow Institute for Advanced Studies on Asia, Tokyo University
- Ursula Elke Flache (情報専門家 2010年度)
Japan Subject Specialist, Staatsbibliothek zu Berlin, Germany, Arbeitskreis Japan-Bibliotheken
- Ayako Hatta (情報専門家 2011年度)
Japanese Studies Librarian, Monash Univ. Australia, Japanese Library Resources Group of Australia

会議参加者4 日本側参加者

- 塩澤 雅代 (関連機関)
国際交流基金 日本研究・知的交流 米州チーム長
- 江上敏哲 (関連機関)
国際日本文化研究センター 情報管理施設資料課資料利用係長
- 樺山紘一 (ワークショップ運営委員、座長)
印刷博物館館長
- スヴェン・サーラ (ワークショップ 委員)
上智大学 准教授
- 小出いずみ (ワークショップ 委員)
渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター長
- 降旗高司郎 (事務局) 国際文化会館 常務理事
- 林理恵 (事務局) 国際文化会館 図書室長
- 森山佳志枝 (事務局) 国際文化会館図書室
- 佐藤従子 (事務局) 国立国会図書館 総務部主任参事
- 南亮一 (事務局) 国立国会図書館 関西館図書館協力課長
- 幡谷祐子 (事務局) 国立国会図書館 総務部支部図書館・協力課長補佐

研究者による日本学状況報告 1

- 国や地域によって日本学のあり方が様々
 - ードイツでは多くの大学に小規模な日本学がたくさんある
 - ーフランス、イタリアでは大規模な日本学の研究機関が少数ある
- 日本学の傾向に関して
 - ードイツでは日本研究専攻者の数が中国専攻研究者より多い
 - ー中国では4年制大学1070校の466校で日本語学科があり日本語教育は重視されている
 - ー中国では学術関係以外にも、同時通訳などの人材養成が重要
 - ーアメリカでは2005年以降日本学が減少したが再び増加傾向、中国語を学ぶ学生数は著しく増加している
 - ー日本学の要素が他の授業に組み込まれたものもある
 - ー日中韓研究の中で日本の比重が下がっていることは否定できない
 - ーアジア研究全体でグローバル化の傾向がある
- 国の政策による
 - ーオーストラリアでは「21世紀はアジアの世紀」といわれており、アジア学が重要視され対アジアビジネスを行う社会人増加を目指す方針
 - ーオーストラリアではすぐれた支援が政府からあっても政権が変わると消滅する可能性があり安定していない

研究者による日本学状況報告 2

- 研究や授業内容 日本学のあり方の変化
 - 文学、言語、歴史、宗教、芸術等の伝統的人文学 (欧州南部)
 - 現代文化 (北欧では社会還元が重視される)
 - ポップカルチャー (若い世代に人気)
 - 異文化交流、比較文化の中で、日本のみが対象ではないトランスナショナル研究
- 支援に関して
 - 新たな研究分野 (例えば 現代文学、漫画等) の研究支援が必要
 - 経済的支援だけでなく、今後は研究をサポートする協力体制を整えることが学生にとっても研究者にとっても必要
 - 文化交流のみでなく、経済、貿易、政治分野での日本との交流が必要
 - 日本でのフィールドワークの助成金は学生向きではない
- 世代交代
 - 研究者の世代交代があったり、次世代研究者が仕事を得られず、定年退職者の出た後そのポストが他のアジア学に移ってしまう
 - オーストラリアでは若手と呼ばず early career と次世代の研究者を呼んでいる
 - 研究者のための助成金が数少なく、競争率が高い

研究者による日本学状況報告 3

- 学生卒業後の問題
 - －日本のみでなく、中国や韓国、東アジアをカバーすることが就職に有利
 - －日本語だけでなく中国語もできる重要性がより高まっている
 - －ジョイント・ディグリー 例えば日本の大学とドイツの大学の両方の学位を取得できる
 - －中国でもダブル・ディグリーの準備が進められている
 - －専門知識を発揮できる場が少ない
- 研究のあり方
 - －日本語から入る研究者とディシプリンから入る研究者がいるが、文献を解読できる十分な日本語力と共に専門分野の知識が必要
 - －専門分野の日本国内の研究者との交流が十分でない
 - －日本研究の最終目的はと研究者のいる国と日本との両国文化理解だが、国同士の関係が悪くなった時こそ深い研究が必要で表面的な両国関係に影響されずに研究がされるべき
 - －大学教員の募集が対象を東アジアの専門家とすることが多くなっているため、日本が専門でも、日本だけでなく東アジア全体を扱う必要がでてきている

情報専門家による報告 1

- コレクションについて
 - 国によっては集中してある図書館で日本関係資料を重点的に集めている場合もあるが、各国内でのコレクションには限界がある
 - 学生や研究者に十分な資料を提供するには他の図書館とのネットワークが必然
 - デジタル時代にあって日本の資料のデジタル化、殊に図書電子化が遅れていることが海外からのアクセスの最大の難点となっている
- 研究の変化、資料へのアクセス、提供
 - 研究のための資料が図書や雑誌記事だけでなく漫画、映画といった資料に広がっているが、アクセスが必ずしも容易でない
 - 研究者や学生は資料を即刻入手することを望んでいる
 - 古典資料はデジタル化されたものが増えているが、総括してこれらの資料を検索する手たてがない
 - 国会図書館の雑誌記事の複写サービスは日本語ができないと注文できないが、図書館に必ずしも日本語のできる人が働いているとは限らない
 - 日本学、アジア学の図書館資料担当者が、日本語のできず一人で複数の地域の複数の言語資料を担当していることも多く、日本語資料、デジタル資料の提供する場合でも、英語等による手続きの情報やサポートが必須

情報専門家よる報告 2

- 図書館ネットワークについて
 - 国によっては国内に日本学図書館ネットワークがあり、それにより資料提供協力、日本学図書館研修等が行われている
 - ワンパーソンライブラリーも多く、EAJRS等の会合に参加するのが時間的に難しい上、経済的に旅費を出すのが難しい
 - 国内でネットワークを作ることが不可能だったり、ネットワーク作りの機会が少ない
 - 各種研修を行うことでできる参加者間のネットワーク構築の意義は大変大きい
- 日本学司書について
 - 本来は日本研究と図書館情報学の両方が必要
 - 日本学司書の研修のための予算が大学や図書館からなかなか出ない
 - 日本学もアジア学の一部、あるいはインターディシプナリーの傾向が強くなり、司書もそれらのある程度カバーできる必要がある
 - 図書館でも世代交代があり、ノウハウを次世代に伝えていく必要がある
 - 財政的に見て大学図書館にアジア学/日本学の情報専門家が增える見込みが少ない
 - 天理古典籍ワークショップのように研究者と情報専門家という枠を超えて知識を共有する場を持つ必要がある

情報専門家による報告 3

- ワークショップ、研修等について
 - ー大学カリキュラムで日本情報専門家のコースはほとんどないので、ワークショップ等の研修は必須
 - ードイツ国内の育成事業は目録政策と検索ツールの2種類
 - ードイツでは各地に出向いての講習会有一些
 - ー1国内で研修を行える所もあるが、多くはそれほど多くの日本学図書館員が国内にいないので、国を超えての研修が必要
 - ーこれまで、国会図書館・国際文化会館・国際交流基金により行われてきたような研修は今後も必要である
 - ー日本語の全くできない、あるいは十分にできない担当者は今後も増える傾向にあるので日本における研修でも英語で行う必要がある。
 - ーデジタル時代、情報は目まぐるしく変わっていくのでシニアに対しての研修も必要
 - ー海外の日本学司書が、日本国内向けの司書研修に参加できるとよい
 - ー講義形式より対話形式や実習などのセッションがより効果的
 - ーコレクション構築、助成金申請、キャリアについての研修内容が希望されている

討論 今後の課題



今後の課題 1

資料アクセス上の課題

- 海外から資料が入手し易くなることを望む
- 資料の総合的なアクセスポイントが欲しい
- ネットアクセスの環境が十分整っていない所もあるので、データ容量が軽いファイルと正規ファイルが分けられているとよい
- 海外の学生や研究者が日本国内で大学図書館へアクセスがし易くなることを望む
- 国会図書館で入手できない資料の入手方法情報が記載されているといい

資料に関する課題

- 日本国内でのデジタル化の必要性を日本の研究者にも自覚して欲しい
- デジタル化されても公開されていないとアクセスできない
- 「データベースのデータベース」構築が必要
- 非文献資料の探し方が複雑
- 世界から見た日中関係、共通課題としての国際社会話題が注目されている

今後の課題 2

日本国内研究者との協力

- 日本国内の研究者が海外の図書館で日本情報専門家に頼るケースが多い
- 研究者はディシプリンがしっかりしていないと議論ができない
- 共同研究の際、日本人研究者との連携が余り見られない
- 海外の研究者が日本の研究者と共同研究するのに適切な研究者を探し紹介できるデータベースが有るとよい
- 機関協力でインターネットを利用した博物館や院レベルでの授業を実験的にできないか

今後の専門家研修について

- 今後も、海外での各国・各地域のワークショップなどに加えて日本側での研修の継続が期待される
- 今後の研修として、バーチャルスペース、Webinar活用が考えられる
- 東アジア情報専門家の育成と研修が必要
- 英語による研修が必要
- 情報専門家はインフォーマルな情報をどれぐらい人に伝えられるか、見つけられるかが重要で、それにはコミュニケーションが更に重要であり、人の交流なくしては成り立たない

写真提供 国際文化会館図書室

参考 議事録 国立国会図書館・国際文化会館
ブログ 江上敏哲のブログegamiday 3 (メモ)日本専門家ワークショップ2013 その1-5

